

# 明るい未来を感じるまちづくり



神崎町長  
石橋 輝一

新年あけましておめでとうございます。町民の皆様には、清々しい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、日頃から町政全般にわたり深いご理解とご協力を賜り、心から御礼を申し上げます。

昨年は、夏の参議院議員選挙で、衆参ねじれ現象が解消されましたので、安定した政権のもと、国民が豊かで希望の持てる国づくりを期待するところでありま

す。また、富士山の世界文化遺産登録、和食の世界無形文化遺産登録、2020年の東京オリンピック開催決

定など、日本に注目が集まる話題も多くありました。

今年も、首都圏中央連絡自動車道（圏央道）の茨城県稲敷インターチェンジから（仮称）神崎インターチェンジ間が3月末開通の予定となっており、交通アクセスの進展とともに、本町に注目が集まる年であると期待しております。

町では、第4次総合計画で「発酵の里、健康笑顔のまち こうざき」の実現を目指し、様々な施策を展開しております。

「発酵の里こうざき」が昨年商標登録され、食品から事務、家庭用品まで幅広い商品が登録されましたので、発酵の町を全国にアピールしてまいります。

昨年1月には、「全国発酵食品サミット」を本町で開催し、参加された全国の発酵食品に携わる官民の関係者に、「発酵の里こうざ

き」を発信いたしました。

また、平成21年から行われている恒例の酒蔵まつりも3月に開催し、2軒の酒蔵を中心に、発酵食品や地元産品を販売する約200店の出店とおいらん道中などを目当てに、人口の6倍を超える来場者で賑わいました。

まちのマスコットキャラクター「なんじゃもん」と、町の観光大使である大衆演劇の女形スター門戸竜二氏の両面から、今年も発酵の町として内外に、より一層のPRをしてまいります。

更に、圏央道のインター周辺には、発酵食品の販売を促進し、地域振興の発信基地及び防災拠点となる道の駅の建設を、来年4月オープンを目指して事業推進しております。道の駅は、町特産品などの販売エリア、情報発信エリア及びレストランときれいなトイレを備えた、木造平屋建ての酒蔵をイメージした建物で、千葉県の北の玄関口として、北総地域全体の活性化にも

つなげていきたいと考えております。また、インター周辺整備について、国、県、所轄警察などの関係者と協議会を発足し、隣接するパーキングエリアの設置も国に要望中であります。

継続事業で進めております神宿浄水場移転事業は、来年3月には完成し、東日本大震災の復旧事業が4年ですべて完了することとなります。

道路関係では、町道並木郡根岸線の交差点改良及び橋梁工事、町道本宿並木小松線の舗装修繕工事も3月までに完成し、小中学生の通学路の交通安全対策を推進いたします。成田市との共同事業で町の東西を結ぶ町道成田神崎線は、用地買収が順調に進んでおり、新年度は流末排水工事を予定しております。今後も、町民の安全、安心を確保するため整備促進をしてまいります。

教育関係では、老朽化した米沢小学校空調設備を、中央集中型から個別方式に



平成26年度末に完成予定の道の駅のイメージ図